

問1 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山公立入試 類似）

1. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
2. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じた
3. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した
4. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした

問2 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国（分国）内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何といいますか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 公事方御定書
4. 分国法

問3 16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した
2. 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた
3. 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした
4. 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった

問4 武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度
2. 分国法 - 御成敗式目 - 武家諸法度
3. 御成敗式目 - 武家諸法度 - 分国法
4. 武家諸法度 - 分国法 - 御成敗式目

問5 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代（鎌倉時代）の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 将軍と御家人が、土地を媒介とした御恩と奉公の主従関係を結んだ。
2. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。
3. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。
4. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦に当たった。

問6 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峯を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。（2017年 高知公立入試 類似）

1. バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。
2. クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。
3. フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。
4. マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。

問7 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取公立入試 類似）

1. 石見銀山
2. 足尾銅山
3. 生野銀山
4. 富岡製糸場

問8 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取る
2. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
3. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること
4. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること

問9 15世紀に発生した応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したことで、家臣が主君を倒したり、地方の武士が守護大名を追放したりして実権を握る事例が全国で見られるようになりました。このように、実力のある者が上の身分の者の地位を奪う社会的な風潮を何と呼びますか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 下剋上
2. 尊王攘夷
3. 一揆
4. 版籍奉還

答え合わせ・解説

問1	答え 1 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍事力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問2	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問3	答え 1 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した	鉄砲はそれまでの弓や刀に比べ、習得が比較的容易で高い殺傷能力を持っていたため、大量の足軽に装備させて組織的に運用する集団戦法を生み出しました。これにより、一騎打ちを中心とした従来の戦い方は衰退し、織田信長が長篠の戦いで活用したように、大規模な軍事力を持つ戦国大名が有利になる社会構造へと変化しました。
問4	答え 1 御成敗式目 - 分国法 - 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の大名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問5	答え 2 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。	鎌倉時代は将軍と御家人の主従関係や、御成敗式目による武士社会の秩序が重んじられた時代です。設問にある「下剋上」は、室町時代末期から戦国時代にかけて顕著になった社会風潮であり、鎌倉時代の特徴ではありません。この時期には応仁の乱などをきっかけに幕府の権威が衰え、実力主義の時代へと移行していきました。
問6	答え 1 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峯を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。
問7	答え 1 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問8	答え 1 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取る	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問9	答え 1 下剋上	室町時代の中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。